

コグメド・ジャパンワーキングメモリートレーニング

評価データ 2007 年

日本における最初の 119 人の 18 歳以上の成人（うち 17 人）と子どものワーキングメモリートレーニング結果のコグメド社データベースに収拾されたデータの概要を示す。

バックグラウンドデータ

119 人中トレーニング完了者 117 人。表 1 に年齢、性別を示す。以下はトレーニング完了者のトレーニング効果について評価する。

表 1 バックグラウンドデータ

性別	男性 89 人、女性 30 人
年齢	13.7 歳（6.4 歳）（18 歳以上 17 人。最高 43 歳）
トレーニング日数	25 日（24–27 日）
完了率（20 日以上）	98.3%（119 人中 117 人完了）。（完了者は 24 日（1 人）–27 日（1 人）。途中終了者 2 人（男性 1 人、女性 1 人））

トレーニング効果

測定

3 つの測定値でトレーニング効果を評価。

1. ワーキングメモリーインデックス

ワーキングメモリーインデックスはトレーニングプログラムの中の二つのトレーニング・タスクに基づいた改善の測定値。2 日目と 3 日目の結果を、トレーニング中のベスト 2 日の結果と比べる。

2. 保護者による行動評価アンケート

コグメドはアセスメントのためではなく、トレーニング効果の評価のために DSM-IV レーティングスケール（評価尺度）と子どものための 10 項目セルフレポートスケールを使用している。この評価では、DSM-IV レーティングスケールを使用する。

3. コーチ評価

ワーキングメモリーインデックス、DSM-IV レーティングスケールおよびトレーニング後インタビューの結果にもとづきトレーニング効果のコーチ評価を行う。1-10の尺度で評価され、1は効果のなかったトレーニング、10は特筆すべく成功したトレーニングを意味する。5は、「25日間完了し、大変がんばった。トレーニング効果のあるものは日常生活で気がつく。例えば、「少し改善した集中力とスタミナ」またはひとつの特定の行動が明らかに変わった、例えば、手順に従うことが明らかに改善した、など。レーティングスケールに変化があるかもしれない。だんだんと具体的なトレーニング効果が増えつつある」。9は「大変成功したトレーニング。この人の生活のいくつかのドメインに大変大きなトレーニング効果がある。レーティングスケールに大きな変化がある。」と定義される。

結果

ワーキングメモリーインデックス

ワーキングメモリーインデックスはストックホルムのトレーニング終了者で観察される範囲よりも、よりよく改善している。(次のページの表参照)

DSM-IV のイフェクトサイズ

イフェクトサイズは DSM-IV レーティングスケールの変化の度合いを正規化して表現するものである。トレーニング後のレーティングスケールがトレーニング前のレーティングスケールから引き算されて、トレーニング前のレーティングスケールの標準偏差で割り算する。不注意の改善は強い範囲(1.15)を示し、多動の改善は中くらいの範囲(0.55)を示している。(次のページの表参照)

コーチ評価

今回の評価では、84%のトレーニングが5あるいはそれ以上の評価だった。61%は大きな改善効果があり、23%はやや改善あるいは改善した。16%はトレーニング7-10日の時点でトレーニング効果が見られなかった。

96%がワーキングメモリーインデックスの伸びの点で効果の基準とする14以上の改善を示した。

表2 東京とストックホルムの比較（ワーキングメモリーインデックスの改善と、DSM-IVレーティングスケールの改善）と ES(イフェクトサイズ)（東京）

東京	トレーニング前	トレーニング後	差分	ストックホルム	米国クリニック	JAACAP 2005 論文
WM インデックス	81.3	111.1	29.8 (13.4)	23.5	27	14
DSM-IV 不注意	16.7 (5.0)	10.9 (4.5)	5.8 ES=1.16	5.0	8.9	5.7
DSM-IV 多動	8.9 (6.6)	5.3 (5.1)	3.6 ES=0.55	4.5	3.0	3.2

(カッコ内標準偏差)

ストックホルム	トレーニング前	トレーニング後	差分	ストックホルム	米国クリニック	JAACAP 2005 論文
WM インデックス	72.9	96.4	23.5	—	27	14
DSM-IV 不注意	18.4	13.4	5.0	—	8.9	5.7
DSM-IV 多動	15.8	11.3	4.5	—	3.0	3.2

WM インデックス=ワーキングメモリーインデックス